

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 224 号)

発行日：2026 年 (R8) 3 月 18 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)

## 戦争は最大の環境破壊と、差別を生み出します

「アルマゲドン」「エヴァンゲリオン」は映画とアニメの世界とと思っていましたが、現実に行っている状況かもしれません。どちらも「聖書」に出てくる言葉で「最終戦争」と「福音」を意味するそうです。映画の「アルマゲドン」は単純明快。小惑星衝突から地球を救うお話。まさしく人類を救う「最終戦争」。アニメ「エヴァンゲリオン」は難解。人類を一度リセットして再生しようということか？それが「良い知らせ＝福音」。私には理解不能ですが…。

今起こっている戦争はこの考え方の「最終戦争」になるのではないかと心配するのは私だけではないと思います。「福音」ではイスラエル（ユダヤ人）が重要な役割を果たすそうです。今の戦争はそれで成り立っているのか？「人類」を一度リセットして、新たに生まれる「人類」の社会はどのような形になるのでしょうか。その社会に「日本人」はいないかも？

私たちの日常は？石油が届かないと心配はしても平穏に過ぎていきます。ガソリン、ナフサが値上げされるとの「煽り」のような報道があっても。

今、私のいちばんの心配は「坐骨神経痛」。決して戦争の心配はしていません。「激痛」に耐え「痛み止め」を飲み、日々をヒヤヒヤと過ごしています。人間とはやはり小さく身勝手なものです。

(今住 3 月 15 日作成)

## 保育所シリーズ 第 3 弾！地獄コース ★2 月 5 日 (木) はなみずき保育園分園

13 日 (土) やまぼうし保育園分園 そらとはな保育園 合同チーム

18 日 (木) はなみずき保育園本園

保育園シリーズ第 3 弾！今回は「地獄コース（蟻地獄コース）」。小学生が開拓した蟻地獄並みに「危険」がいっぱいのコースです。いつも「ほんまにええのんか？」と自問自答しているのですが。「やめてください」の声も聞こえない。で、やってます。

ここ数年来ている保育園。園児は代わるのですが、年々活動が過激になっているような。毎年同じ内容だとガイドしている側がつまらないので。過激ではなくバリエーションで工夫していきましょうか？

さて、「地獄コース」。たまたま「丹波市森林組合」の里山整備（間伐作業）の期間。作業のおじさん達の姿も見られるのでは、とおじさんたちに出会ったときのレクチャーから。「がんばって～がんばって～」の大声の練習。もう一つ、いつもの「たすけて～たすけて～」も。体が温もってきました。準備は OK。しゅっぱ～つ。



多分シカの顎骨と歯

湿原までにシカ（鹿）の歯（下顎？）を発見。園にお持ち帰り。さらに「食べるものはないの？」



第3 湿原に到着

と聞かれ、「食べられたものじゃないけど、食べられるものはあるよ」とヒサカキ(姫榊)の実・葉やソヨゴ(戦)の実を紹介。食べるがな。一応食しましたがやはり食べられたものじゃない。しかーし、ムシャムシャ食べる園児が。「この子はなんでも食べるんですよ」と園長さん。そういえば、前回もオオウラジロノキ(大裏白の木)の実をムシャムシャ食べていたのを思い出しました。「凄いな〜」と感心しました。ただカラカラに乾いた、しかし赤くておいしそうなるサルトリイバラ(山帰来)の実はカスカスで「ペッ まず〜」と吐き出していました。いやこの時期の実はどれもほんとにまずいのですが、不思議です。一応安全のため？全て味見しています。



作業中の看板を発見!



作業中の丹波市森林組合の方 「お〜」と…「おー！おー！」と返事が。感動に心が震えました。誰が感動したんや？(相当の誇張あり、園によって違いあり)

第2 湿原方面から鉄塔、山を下り第4 湿原方面へ。湿原からの水が流れる小川を見つけると我慢できずに川へ。下が岩でできた川。水量は少ないが滑る。ひとりが行くと「わたしも、



なぜか恐れも無く小川に入って行きます



あ〜しんど 裏六甲がよく見えます

ぼくも」と次々と。何とかクリア。水没して泣いている子ども数人いましたがそちらは保育士さんにお任せして進む。視点場でひと休み。又マガヤストロー屋さん開店。湿原周囲を一周してきたので、湿原をはさんだ向かいには作業のおじさんがいます。再び「がんばって〜がんばって〜」「おー！おー！」とコール&レスポンス。再び感動の涙が…。そしていよいよ地獄へ。園児たちもノリノリ。途中六甲の山並みを眺めて休憩。元気玉(金平糖)で英気を養います。いよいよ蟻地獄の地獄へ。最初、ズリの傾斜のあまりのきつさにしり込みするも、お尻からズリズリと降りていきます。ひとりが行くと次から次に。でも登れない…泣きそう。阿鼻叫喚の世界が毎回。今期は救出口ロープをスタッフが用意。まさしく「蜘蛛の糸(芥川龍之介)」の世界。下を向いて「…この蜘蛛の糸は己のものだぞ。お前たちは一体誰にきいて、のぼって来た。下りろ。下りろ。」と言う園児も無く、皆さん全員無事に(極楽へ)戻ってこれました。



上がってこれるか？ 左には蜘蛛の糸が



園バスに乗り込みひと安心 帰りましょ

**定期活動** ★2月22日(日) 春のような陽気 第4 湿原又マガヤ刈り 5名で作業

ウグイスも鳴きだす陽気、汗ばむようです。ん？集合場所に見慣れない車が。一般のハイキング



こら！しゃべってばかりはいけません。か？

かわっているかの研究のようです。(人のガバナンスか？) 実際はよく分からない…とにかくご挨拶に来られ(お土産付き) 作業も一緒にしていただきました。遠い所からの作業参加。年何度来れるか不明とのことですが、今後会員として関わっていただきます。研究については、まとまった時点で共有していただけるとのこと、楽しみにしています。

さて作業ですが、第4湿原上手と下手両方から、刈り払い機3台と手刈りで進めました。本当に暖かく(暑い?)、上着を脱ぎ棄てての作業となりました。連休の中日で参加者は少ないですが…。



陽気に誘われ多くのキタテハが飛び出した

雨も少ない。当然表面水量は少ない。慢性的な状況と言えるでしょう。だからこそ刈り取り作業は重要。(ほんまか?) 運び出しも含め汗をかきました。刈り取った又マガヤ(沼茅)の中に越冬型のチョウ、キタテハ(黄立羽)がいたのかたくさん飛び出して来ました。冬を越したとは思えない美しい翅です。

終了間近になって、セトウチサンショウウオ(瀬戸内山椒魚)の卵囊の探索も。しんどいだけではやってられません。水筋をそろりそろりと観察していきます。

雨が降っていないので産卵は無しか？と置いていたらありました。同一か所に約2対の卵囊が。「よかったよかった」雨不足でも何とか命をつないでいるようです。もちろん産卵の最盛期はこれから。たくさんの卵囊が見つかる年があれば、全く見つからない年も。セトウチサンショウウオはダラダラと5月ぐらまで産み続けるようです。「見つからない」のではなく「見つけられない」。

環境の維持、保全。これがすべてではないでしょうか？気候の変動はどうしようもありませんが…。丸山湿原群は県・市の天然記念物。開発のリスクは限りなく低い。気楽に頑張りましょう。



セトウチサンショウウオの卵囊

**極秘 両生類卵塊数調査** ★3月1日(日) 今年は極秘? 会員のみで調査

すみません、今回は直前にメールで告知。会員(アカウント登録のある方)のみでの実施となりました。「両生類セミナー」の休止や少雨、センサスラインの問題もありしばらくはこじんまり実施したいと思います。

前回の活動報告にも書いたように、とにかく雨が少ない。両生類の産卵を促すとされる雨。それが降りません。本来「♪は〜るのおがわは、さらさらいくよ〜♪」と歌われるように、春先は小川をサラサラ(水量が結構多く?)流すような雨が降るものと考えられます。(諸説あり、間違いか?)降らないものはどうしようもない、降らなくても産卵しているに違いありません!水が無ければ「両生類」はどうしようもないと思いますが…。

**調査結果。**第3湿原でセトウチサンショウウオ卵囊 1.5 対。第1湿原でセトウチサンショウウオ卵囊 6 対。ニホンアカガエル卵塊 27 塊。オタマジャクシも多数泳ぐ。第4湿原ニホンアカガエル卵塊 1 塊。という結果に。(先週のセトウチサンショウウオの卵囊は不明)

気になるのは、頭をかじられたと思われるセトウチサンショウウオの成体が3体。何かにかじられた**ニホンアカガエル(日本赤蛙)**の成体が1体見つかったこと。想像の域を  
セトウチサンショウウオ死骸 チスイビルが吸血中  
出ませんが、メスの産卵前後、雄は同所にとどまることが多く、そこを**アライグマ(洗熊)?**にキャッチされパクリとやられたのでは。特にうまくもなく?(頭がうまい?栄養豊富?)頭部だけかじられ放置。ちよくちよく確認はされていましたが、今年は数が多いような気がします。アライグマが出没しているのは確認済み。おそらく間違いはないでしょう。現実です。シカも含め要注意です。

**定期活動** ★3月14日(土) 定期基礎調査 作業 刈り取り 8名の参加

目的	市内	市外	場所	時間	【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	32	115	入口	10:15	10.5		
ハイキング・登山	99	52	第3湿原	10:41	12.5【10.7】	30.3 μS/cm	6.9
散歩	7	17	視点場	10:55	12.0【13.7】	26.0 μS/cm	5.1
			第1湿原	11:05	14.0【10.2】	29.6 μS/cm	5.7
			第2湿原	11:20	12.5【6.9】	33.0 μS/cm	5.6

来場者数計 322 人  
(竹筒ポスト集計)

この日は例の坐骨神経痛のため私は宝塚市からの消耗品を納品したのみ。作業には参加していません。想像です。

道具を抱え歩いていくと、県が設置した「コナラ、アベマキ群集」の看板が朽ちて倒れていました。微生物は偉大です。と感心している場合でもないの

ですが仕方がない。旧道に倒れ込んでいる小木の撤去。湿原内の作業は、第3湿原の残り第1湿原西側のササ刈りを中心に実施。見事第3湿原は終了。ササ刈りも順調に進み丹波市森林組合さんが実施してくれた部分とまもなく結合します。ここにはミヤマウズラ(深山鶉)が潜んでいます。明るくなり多く出てくることを期待します。



水中 斜面での作業

残ったヌマガヤ類の刈り取り作業

作業は、第3湿原の残り第1湿原西側のササ刈りを中心に実施。見事第3湿原は終了。ササ刈りも順調に進み丹波市森林組合さんが実施してくれた部分とまもなく結合します。ここにはミヤマウズラ(深山鶉)が潜んでいます。明るくなり多く出てくることを期待します。

次回活動日 3月22日(日) 4月11日(土) 26日愛す会との協働 (日) 5月9日(土) 24日(日)